

墓石のはなし

墓石というと普段の生活に密接した風景だと思われがちです。特に高砂市では石屋さんも多く石材店もありますので、墓地以外でも目にすることが多いと思います。

ところで墓石というと古くからあったものと思っていませんか。墓のしるし(墓標)として墓の上に立てることは縄文時代から行われています。また、平安時代から室町時代にかけて宝篋印塔・五輪塔などの石塔も墓石と思われがちですが、異なつた性格で墓標ではありません。共同墓地の惣墓としてや供養塔などとして建立されたものです。そこに舍利骨を納入することはあつても、現在のように遺骨を埋納することは原則的にはありません。

現在、目にする墓石は江戸時代になってからのものです。近世を象徴するものと言えます。多くの寺院や

共同墓地などにあります。

もう1点大きな変化は不特定多数の人々の墓石があることです。古墳時代の竈穴式石室に代表されますように原始古代中世と長期にわたつて多くの墓は一部特定の方に限定されるものでした。それが、裾野が広がりました。これも近世になってからのことです。



墓石には、どんな形があるのでしょうか。柱状のもの、

の、位牌状のもの、舟形のもの、笠付きのものなど多数あります。柱状のもので一般的な軍人墓に見られる頭が方錘に尖らせた細長いものの、方錐のもの、丸く盛り上がったものなど幾つかの種類に分けられます。墓石の台石のかたちにも種類があります。その他、墓

石の正面上部の火燈杵と呼ばれる装飾にも変化があり、地域性や石工の特徴があらわされます。

墓石の石材にも種類があります。高砂では竜山石が多く使われていますが、それ以外に神戸市東部の花崗岩(御影石)、大阪府南部の和泉砂岩が使われています。一部、播磨の凝灰岩や瀬戸内海の花崗岩も使われています。

時代の流れによつて個人墓から家族墓へと変化する過程も様々です。これらを絡ませて検討すると、各地の歴史を如実に伝える資料として活用され、貴重な資料となります。

(兵庫県立考古博物館

渡辺 昇)



さまざまな形の墓石

(右…位牌型、左…笠付方柱型)